

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第71号 2016年6月

発行人：吉田 博行 編集長：地田 博昌 事務局長：安藤 孝

事務局：〒152-0002 目黒区目黒本町6-4-16 Tel 03-3716-7477

2016 年定時総会開催のご案内

2016年目黒稲門会定時総会を、下記の通り開催致します。会員の皆様にはご多用の中と存じますが、是非ともご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

第1部定時総会では、2015年度事業実績報告、同決算報告及び監査報告、2016年度事業計画案、同予算案、役員改選等の審議を予定しております。

第2部の懇親会では、「早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会」の出演によるフラダンスショーを企画しております。新年度の出発に集い合い、夏の熱気に乗せて大いに語り、大いに飲み、早稲田の絆を深めたいと存じます。ご家族お揃いでのご参加を歓迎致します。

ご参加の皆様には、例年通りクールビズ、スーパークールビズでのご参加をお願い申し上げます。

記

1. 日 時 2016年7月10日(日)
受付開始 15時30分
総会・懇親会 16時～19時
2. 会 場 目黒雅叙園 2階華しずかの間
目黒区下目黒1-8-1
Tel 03-3491-4111(代表)
3. 交 通 JR 山手線、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線、目黒駅下車徒歩5分
東急バス 権之助坂・日の出学園下車徒歩3分
目黒駅からの迎えバスの運行はございません。雅叙園より目黒駅への送りバスの運行がございました。
4. 会 費 会員 10,000 円、ご同伴家族 5,000 円
当日会場受付にてお支払い下さい。
当日キャンセルの場合、予約の都合上、会費のご負担をお願いします。
5. ご出欠 会報に同封のハガキにて、6月20日(月)までにご連絡下さい。

(田島 記)

早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会(通称ワセフラ)



私たちハワイ民族舞踊研究会は、早稲田大学で唯一のフラダンスサークルです。フラに魅了された乙女が集まって、和気あいあいとフラを踊ったり、フラを通してハワイの文化・歴史・言葉を学び、アロハスピリッツへの理解を深めています。また、月に1回ほどプロの先生に教えていただいています。

美しいハワイアンミュージックに身を委ね、体全体で愛や自然を表現していると、身も心もハッピーになります。練習はいつもなごやかな雰囲気です。休憩中にはわいわいとおしゃべりをして、音楽が流れると皆自然と笑顔で踊りだす、そんな素敵な雰囲気を持ったサークルです。

OBのハワイアンバンドの皆さんの呼びかけによってこのフラサークルが設立されてはや12年、近頃のフラガールブームによってサークルも年々活気を増してきました。(HPより)

特 別 記 事

この記事は、平成28年1月17日、目黒稲門会新年会での「ひかる青雲」「早稲田の栄光」等の作詞者、岩崎 巖様の講演内容です。(編集委員会)



歌と人と——応援歌・学生歌を作詞して

講演：岩崎 巖(昭和24年 政経)

昭和20年終戦後、東京六大学野球が復活し、昭和21年の早慶戦では慶応が新しい応援歌「我ぞ覇者」(藤浦洸作詞、古関裕而作曲)を歌い出し、その4番「好くぞ来たれり 好敵早稲田～おお 打てよ 砕け 早稲田を倒せ～」の歌が3塁側から1塁側の我々に矢のように飛んでくる。これに対し早稲田は、伝統ある「紺碧の空」(住治男作詞、古関裕而作曲)で対抗した。今は大隈講堂から大隈会館に向かう所に記念碑がある。古関先生は、この歌の「覇者 覇者」の作曲にご苦労されたという。

昭和22年、早稲田の応援部が学生から新たな応援歌を募集した。募集要項では、「早慶戦に歌う歌」、「試合中に元気付ける歌」、「勝った時の歌」のどれでもよいというものである。私は勝った時に歌うことをイメージして投稿した。「ひかる青雲」。北原白秋の影響を受けた題名。ソフトな歌詞とし3番まで。まもなく代表委員の高岡さんから早慶戦の歌詞を入れて欲しいと言われ、4番を付け加えた。「競う青春誇りの歌よ 慶応倒し意気上げて この歓びを歌おうよ」。勝って歌うので、歯ざしりする必要がない。

この頃、応援部には高岡さんと角南(すなみ)さんの2人のキャプテンがいたようだ。高岡さんは、にこやかで素朴な人柄。角南さんは、さっぱりした快活な人で、海軍航空隊の特別攻撃隊員だった。高岡さんも私も陸軍だった。当時は復員学生がたくさんいた。

昭和22年10月25日、新作応援歌発表会。大隈講堂1階2階とも満席で、グリークラブの長尾要(かなめ)さん(外岡さんの兄)がステージに立って「ひかる青雲」を独唱した。長尾さんは陸軍のパイロットで台湾から帰還した。テノールで朗々と歌い上げ、大喝采。早稲田の人材の多彩さと奥深さを感じた。

☆

私の家は戦時中、横浜から土浦に疎開した。戦後、陸軍から土浦に帰り、友人に誘われ草野球を楽しんだ。練習場所は丘の上の古い木造平屋の小学校のグラウンド。ふるさとのような風景だった。満開の桜散るグラウンドで野球をやる。桜吹雪の中をボールが飛んでくる。「ああ、おれは生きている。」と感じた。軍隊では昼夜死を覚悟の攻撃訓練をしていた。「どんな死に方をするのか。」と話し合っていた。「ひかる青雲」には生の讃歌が無意識のうちに秘められていたと思う。早稲田も慶応もなく、生きている歓びをこめて歌い合ったのが、あの頃の早慶戦だったと思う。

高岡さんは箱根で旅館を営んでいて、町会議員や観光協会の会長を務めた。ある日電話をもらい、昔話をしたが、その直後ファックスが届いた。「ひかる青雲」についての思い出が書かれていた。

『ついつい思い出長話、すみません。さて、50年の話、思い出るままに綴りたい。終戦後、六大学野球の応援に新しい応援歌が作られたが、大半は軍国調であった。昭和22年に校内の掲示板に募集の広告を出した。文学部の服部先生に選者を依頼し、岩崎さんの歌が選ばれた。しかし、作曲をお願いする古関先生と人脈ある知人がいない。私と後輩の部員とで古関先生宅を訪れた。やがて先生から、出来たとの知らせに、小田急の豪徳寺駅で降り、一刻も早くと下北沢まで2人で駆けて行った。先生はピアノで弾いて歌って下さって、奥様は当時貴重なお汁粉を作ってくれた。忘れられない。作曲料は早慶戦の内野券数枚。金銭を度外視したものだった。感謝感激。

大隈講堂での新作「ひかる青雲」発表会の準備を進めていた。何人来てくれるかが心配だ。費用はどうするか。甘泉園での練習後、連日、新宿の国鉄の地下道に行き、「応援歌の発表会です。是非、早稲田ファンの皆様」と言って連日切符を売った。ある若い奥さんが切符を1枚買って、優しい声で、「私は家事があり参上できない。あなたのガールフレンドに差し上げます。」と差し出され、返すお礼の言葉もなく、ただ、頭を下げるのみだった。

また、数人の某女子専門学校生のメンバーにも頼んだ。友人にもと数十枚の切符を買ってくれた。その中の1人、榊原久子女史はその後文学部に編入し、産経新聞の記者となった。未だに先輩後輩の仲だ。「ひかる青雲」の秘められた友情の1コマだ。

この秋から神宮で歌われ、昭和23年の早慶戦、明治との優勝決定戦にも歌われた。そのときの血潮は未だに体にある。命を捧げ、人生を捧げた誇りをもたらししている。学友の早稲田の森の中で、心から語り合える岩崎さんと人生の最後まで交友を深めたい。

当時部員は20人前後。プラスバンドは早慶戦で協力してくれた。そして、グリークラブ、自動車部、放送部、舞台美術部も。』

50年経ったあとで、私はこの裏話を知り、肅然とした。あの高岡さんがそんなに苦労して廻っていたのかと。胸が詰まった。今なお余韻が残っている。

☆

昭和27年、「早稲田の栄光」

神奈川県平塚に米山公一君(昭和24年法)がいた。昭和27年夏5～6人で長野県上高地へキャンプに行くことになり、米山君を誘った。新宿からの夜汽車の中で、米山君が「早稲田で創立70周年を記念し、学生歌と応援歌を募集しており、学報に載っている。」と言った。「締切はいつだ。」「もう締切かな。」「今からでは間に合わないな。」一時は諦めたものの後を引き、上高地についても鬱々としていた。そのうちに覚悟が決まった。よし、書いて出そう。作詞して駄目なら諦めがつく。メモを取り出した。2泊3日のキャンプが終わり、横浜へ帰って歌詞の調子を整え、「早稲田の栄光」と題を付け投稿した。

早稲田学報(89 6号)には、代表委員の青柳さんが次のように記している。『作詞の審査は服部教授と西條八十先生で、作曲は服部教授の「芥川先生に」。芥川也寸志先生宅に伺い、慶応には「丘の上」がある。名も知らない学生と肩を組んで、同じ喜びに酔う。OBとなっても母校を称える、羨ましく思っている。是非、合唱し口ずさむ歌が欲しいと頼んだ。芥川先生は、目をつぶり考えて、「分かりました。やってみましょう。」と。数週間後に再び伺うと、「ああ、出来ていますよ。どうぞ。」と案内された。芥川先生はピアノを弾いて歌って下さった。「栄光は 緑の風に〜」。そして、「学生の皆さんが楽しく歌ってくれば」と謝礼を辞退された。後日、記念品を贈呈した。』

☆

昭和27年10月14日、大隈講堂で発表会。「ひかる青雲」の時と同様にグリークラブの長尾さんが歌唱指導した。秋の早慶戦でも披露された。11月1日からの完全優勝を賭けた早慶戦で3連覇の慶応を破り優勝。大合唱となった。肩を組んで声高らかに、慶応の「丘の上」と並ぶカレッジソングを歌った。

校友の中には、「この歌は全ての早稲田人の琴線に触れる名曲であり、歌うたびに頬をぬらす」という人もいる。昭和52年頃から卒業式直後に肩を組んで歌うようになった。奥島元総長の教務部長時代の発案という。曲のメロディーが式場の雰囲気とマッチしているからだ。芥川先生の名曲のお陰だ。

横浜稲門会の三吉正芳さん(昭和48年政経)によると、「早慶戦を経験しないと早稲田人になれないと

先輩から言われた。確かにその通りだった。早慶戦の応援合戦、応援団席の最上段から横になった校旗がさっと立ち上げられゆっくり進む。その時の応援歌『早稲田の栄光』。生涯忘れられない。あの詞、曲を思うたびに涙が溢れてくる。青春の1ページである。」という。

平成21年10月30日。早慶戦第1日目。30年ぶりで神宮に行った。6対2で早稲田が勝ち、終了後、混雑の中、元応援部監督でその時早稲田の職員として活躍中の石川範行さんと出会った。「これから『早稲田の栄光』です。」と、一般席から最前列の応援席に連れて行かれた。初めてそういう場所で学生と肩を組んで歌った。胸が詰まった。現在、この歌の歌碑が大隈講堂の左の銀杏の木の下に建つ。横浜稲門会の努力が大きい。除幕式では大学幹部が揃い、白井総長、私の謝辞、グリークラブの合唱。生涯の感激だった。早稲田に入って良かった。招待した方の中にいた代表委員だった青柳さんは55年ぶりの握手をしたまま、いつまでも手を離さなかった。

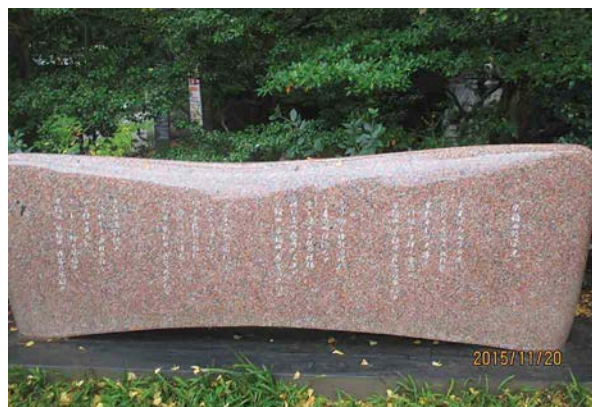
☆

平成8年12月、ペルー、リマの日本大使館公邸が武装ゲリラに襲われた。集まった数百人のうち72名が人質となり、日本人は24名。この中に早稲田OBが2名いた。人質事件は約4カ月続き、翌年4月に解放された。平成9年1月、奥島総長は、大学内の管理職の新年会で、外務省から「早稲田の栄光」を放送して欲しいという申し出があり放送の是非について打診があったと話された。

残念ながら混乱の中「早稲田の栄光」は放送されず、「紺碧の空」が2回放送された。事件終了後、人質の1人、岩本さん(リマ稲門会長、昭和37年法)、もう1人の宮下さん(昭和40年法)は大感激したという。

あの状況下で、リマの空に早慶戦の怒涛の「紺碧の空」が流れたと思うだけで、青春の血がたぎる。

それぞれの時代に帰って早稲田の歌を歌う。早稲田の歌は、我らの心の絆といえよう。



歌碑「早稲田の栄光」

各部会からの案内・報告

ゴルフ部会

ゴルフ部会が発足して今年で17年目を迎えます。去る4月20日(水)第38回ゴルフ部会を都心から1時間と近い、八王子市にある武蔵野ゴルフクラブにおいて開催しました。当日は、好天に恵まれ爽やかな新緑の中19名が参加、澆刺とプレーしました。優勝・安居院文男氏、2位・大杉邦雄、3位・奥山哲郎氏、ベストグロは村上満氏でした。優勝された安居院氏は練習場でご自身のフォームをビデオ撮影してチェックされるほどの熱心さで、これまで毎回優勝の呼び声が高かったのですが、雌伏10余年?、晴れて優勝の栄誉を獲得されました。

ゴルフ部会も高齢化が進み、かつての常連メンバーの参加が少なくなっていくのは寂しい限りです。お元気な先輩方の参加をお待ちしています。

今回は10月26日(水)を予定しています。



ゴルフ部会長 大杉邦雄

囲碁部会

——たかが初段されど初段——

アマの囲碁ファンなら初段は夢です。初段は棋力の幅が大きく、「自分は初段です」と言われても、「ああ、そうですか。」と納得いかぬところがあります。

そこで、初級初段、中級初段、上級初段にわけて考えてみました。

初級初段はツケノビ定石が打てるようになった時、中級初段は二段バネと桂馬のツケ越しを打てるようになった時、上級初段は割り込みや相手の石にもたれて打てるようになり、かつ、緩急を自在に操れるようになった時。これは私の独断と偏見かもしれませんが。

目黒稲門会入会時は5級程度でした。今は3段程度になりました。生涯目標の5段に挑戦中です。この15年、山程買い込んだ囲碁棋書を繰り返し繰り返し読破した経験からの結論です。

囲碁部会長 保井 正

カラオケ部会

第164回の部会は11名(内、新人3名)、いつものように楽しく盛り上がりました。開催日は3月11日(金)、5年前の東日本大震災と同じ日、同じ曜日でした。地震発生 of 午後2時46分、カラオケ部会に向かう途中のことでした。当時は15時半開始。エレベーターは止まり、入室も禁止、携帯電話もつながらず、電車は不通、その後交通機関は全て麻痺したままとり、部会は緊急休止。自然の恐ろしさを知ることとなりました。

第165回の部会は4月8日(金)14名の参加。若木会の女性が参加され、明るく賑やかな部会で平均年齢も大分若返りました。我々の世代からすると演歌が多いと思われがちですが、近年はレパートリーが広がり、世界のさまざまな名曲も歌われます。よい歌はいつまでも歌い継がれ新鮮です。

今後、若い世代の方々の参加を期待し、EXILEや3代目 J-Soul Brothers も聞けたらいいなと思います。

ところで最近の部会で歌唱した曲数を調べたところ、3時間で37～38曲になっています。ロスタイムを含め1曲(フルコーラス)あたり5分かかるとすれば1時間では12曲、3時間では36曲になります。ご参考まで。

カラオケ部会長 梶 恵作

俳句部会

第83回 萩句会報告

日時 2016年4月11日(月)14時～17時

(順不同)

川井素山	岬の畝くろぐると伸び初燕
保井寶正	初つばめ戻りましたとつつく軒
青木英林	待ちわびつ春大根の芽かきせり
後藤克彦	万歩計歩きにじゃまの花見客
佐久間喬	無縁墓に聞こゆ鐘の音彼岸寒
丸山酔宵子	うたた寝や覚めて車窓ははなの列
菊地崇之	春の宵女将造りし夢世界
牧野里山	若葉どき湖畔の径も耀けり
佐久間たか子	切通し抜けて陽あびる花吹雪
佐伯兵庫	花粉症暗き顔立ちなほ暗い
吉田啓悟	覚めてみる夢もありけり花吹雪
山本草風	奔り馬気を静めたる朧かな
金森純女	隅っこの雛忘るるなつばくらめ

俳句部会長 佐久間 喬

ウォーキング部会

4月に大きな地震が九州方面で起きましたが、関係する方は大変な思いをされたことと思います。

やっと季節も落ち着き、気持ちいい日が続くようになりました。皆様と一緒にウォーキングに出発しましょう。初参加、特に女性の方大賛成です。

活動報告と今後の予定をお知らせいたします。

実施報告

3月例会 多摩丘陵の尾根古道を歩くと鶯の声

3月15日(火) 参加14名



4月例会 西池袋の歴史や文化の散策

4月19日(火) 参加16名

5月例会 小手指ヶ原古戦場と狭山湖

5月17日(火) 参加10名

今後の予定

6月例会 江戸五色不動散歩

日時 6月21日(火) 午後1時

集合場所 東京メトロ三ノ輪駅改札外中目黒側

7月例会 武蔵野三十三観音巡り 第1回

日時 7月19日(火) 午後1時

集合場所 西武池袋線練馬高野台駅改札外

8月例会 休会

小雨決行 参加される方は下記まで連絡ください

牧野携帯 090-9649-6868

ウォーキング部会長 牧野武夫

<ウォーキングの楽しみ>

ウォーキング部会参加の魅力は自分達ではなかなか行けない所に連れて行ってもらえることにある。毎回素晴らしい企画をし、事前に資料・地図を準備してくれている部会関係者に敬意を表したい。

昨年の鎌倉三十三観音巡りでは市街地も良く歩き、大仏様や小町通とは違った鎌倉を発見することができた。個人的には残念ながら途中不参加があり、「結願」とはいかなかったが、残ったところは年内成就を目指している。今年1月の新宿区七福神巡りでは先々で“家内と円満”を祈願。ついでに金運もお祈

りしたが今のところ御利益はない。3月の多摩丘陵地帯(若葉台～聖蹟桜ヶ丘)では万歩計を見て1万3,000歩突破なんて叫んでいた御仁もいましたが、距離よりもアップダウンが多く正直きつかった。翌日は足がパンパン。口には出さなかったが、“参加者の年齢、体力を考えたプランにしてほしいよ・・・”。

気持ち良い爽快感のなかでの反省&懇親会。時には4時前に散策が終わり、呑める場所を探すのに苦労するのかもしれない、さすが事前準備が行き届いている部会。皆さんを待たせることなく手ごろな居酒屋へ。若干の疲れもあり、酔いの回りが早い。

参加者の皆さん、目黒から離れた所で呑んでいるんですよ。千鳥足にならず、昼間と同じ足取りで自宅に帰るように心がけましょう。(吉本 記)

早稲田スポーツ観戦部会

—— 2016早慶レガッタ観戦記 ——

4月17日(日)、隅田川で行われた恒例の第85回早慶レガッタを応援観戦に行きました。

当日は生憎発達中の低気圧通過で午前から強風と雨に見舞われ、第2エイトとOB戦は中止となり、第1エイトも危ぶまれましたが、午後からの天候回復により3時20分スタートのメインレースは行うことになりました。

ただ強風は収まらず、川面が波立つ劣悪の状況の中でスタートが切られました。スタートまもなく早稲田の「北斗星」艇が横波を受け慶応にリードを許しました。リバーサイドの実況テレビには浸水した水をかき出すクルーの姿が映し出されました。

結果、ゴール地点で待ちわびていた我々の橋下を通過したのは慶応の「Rheingold」艇1艘のみでした。昨年の失格負け、今年の途中沈没棄権と5年連続で栄冠を慶応に持っていけませんでした。

終了後漕艇部OBの井村会員と応援に駆けつけた7名の会員とともに、浅草の街で今年の反省と来年こそ雪辱を期して日本酒を痛飲しました。



早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

美術・歴史鑑賞部会

第57回は2月24日(水)、港区六本木にある国立新美術館正面入口に10時集合で『はじまり、美の饗宴展—すばらしき大原美術館コレクション』を鑑賞。

大原美術館の代表作品であるエル・グレコ(ドメニコス・テオトコプーロス)《受胎告知》はもちろんのこと、ギュスターヴ・モロー《雅歌》、フェルディナント・ホドラー《木を伐る人》、ポール・ゴーギャン《かぐわしき大地》や児島虎次郎《和服のベルギーの少女》、青木繁《男の顔》、岸田劉生《童女舞姿》、藤田嗣治《舞踏会の前》、安井曾太郎《孫》、梅原龍三郎《竹窓裸婦》等、数多くの素晴らしい作品に感激した一日でした。

参加者16名。鑑賞の後は美術館近くにあるイタリアンレストラン「ラ スフォリーナ」で新参加の奥村さんの自己紹介と招待券寄贈の吉野さんのお話を聞きながらランチを食べ解散しました。



美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦

食べ歩き部会

3月30日(水)に、青山霊園での花見会とその後の食事会を開催しました。東京の桜の満開予想日に合わせた日程だったのですが、寒い日が続き、桜は五分咲きというところでした。

しかし、志賀直哉、斎藤茂吉、大久保利通、松方正義、尾崎紅葉、乃木将軍といった著名人のお墓を興味深く見学しました。中でも忠犬ハチ公が、飼い主の上野博士の墓所の片隅に、犬小屋の形をしたお墓があったのが感動的でした。

夕方5時頃から、「大江戸」北青山店へ場所を移し、食事会です。2時間近く歩いたので、のどが渇き、ビールやお酒が進みました。つまみのぬたがおいしく、締めのような重もおいしくいただきました。参加者は13名でした。

食べ歩き部会長 猪名川一雄

若木会

3月26日(土)、毎年恒例の心の若木会【お花見会】を開催しました。今年は若木会・現役学生・心の若木会メンバー併せて16人の参加となり、大盛況となりました。



残念ながら桜は2分咲きでしたが、むしろ、目黒川沿いを散策しながら宝探しをするように桜を探す楽しみがありました。

一通り散策が終わった後は昨年と同様目黒川沿いのティビッキオにて素晴らしいイタリアンを肴に

花見酒を楽しみました。中目黒近くのコーヒーショップにて開催された二次会も多数の参加者でにぎわい、尽きない話題に花が咲きました。

来年以降も恒例行事として開催を続けていきたいと思います。皆さまご参加いただきありがとうございました。



若木会部会長 中西元樹

麻雀部会

1. 4月9日(土)、40回目の2区(目黒、世田谷)親善大会が用賀「鈴や」で12時20分より16名の雀士の下、賑やかに開催されました。最後の2区大会を豪華にと優勝含め9つの賞をつくり大乱戦模様の大会になりました。優勝 鈴木氏、準優勝 郡山氏でした。

2. 6月20日(月)、目黒定例麻雀会を武蔵小山サンにて12時30分より開催します。

麻雀部会長 鵜野洋治

加藤榮護さんの死を悼む



加藤榮護相談役（元会長）は、3月9日逝去されました。享年84歳。ここに謹んでご報告申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。目黒稲門会の発展に多大なご貢献を戴いた加藤相談役を偲び、追悼文を掲載させて戴きます。

編集委員会

目黒稲門会会長 吉田博行

3月9日午前10時40分、加藤夫人から、逝去の電話を受けた。驚きでしばし絶句。前日の「最近会っていないね、近々暖かい日に一杯やろう」というお誘いの電話は何だったのか。

急ぎ伺い、加藤さんは応接間に安らかに眠っていました。いつもの顔色で、声を掛けると笑顔で起き上がってくるかに見受けられました。

目黒稲門会の第2代会長を務められ、会員の連帯と親睦を深めることに尽力し、それを常に実践されてきました。

酒を飲むのが大好きで常に酒席の真中にいました。そのニコニコと飲む雰囲気は、各部会の活動後、反省会と称する飲み会に発展し、今日では目黒稲門会の文化と言えます。

ボランティア活動についても、飲み会が多いのだから出席者から一人100円徴収してそれを基金にしてはと提案され、それが現在のボランティア部会の活動に繋がりました。

前日まで、好きな酒を飲み、最期は愛する夫人の傍で永遠の眠りについた加藤さん。安らかに眠り下さい。そして母校の繁栄と目黒稲門会の発展を見守って下さい。

生前のご厚誼に感謝し心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

ここに追悼の一句を捧げます。

春しぐれ肥後の酒聖の旅立て

相談役 外岡 明

柩に納められた加藤さんは、早稲田カラーのネクタイを絞め、いつもと変わらぬ穏やかな顔で、生花に囲まれて 静かに眠っておられた。

肩を叩けば、眼を明けるのではないかと一瞬思った。「どうして、こんなに早く逝っちゃったのさあ！」と声をかけた。背後から奥様の「何で、私を置いて先に逝っちゃったの」という小さな呟きが聞こえた。

それは、ご尊父と同じ84歳での大往生だった。

私がお会いした最後は、8日前の3月1日午後3

時頃、スポーツクラブのロッカールームであった。

閑散とした時間帯で人影も無い中、二人で暫しの間おしゃべりをした。これが加藤さんとの最後の会話となってしまった。

加藤さんは温厚篤実なお人柄で、誰からも愛され、平成16年には、真仁田会長の跡を継いで第2代会長に就任され、会の充実・運営に力を尽くされた。そして又、こよなく酒を愛しておられた。

「酒は、食べ物を更に美味しく食べるために、飲むものである。」が持論であった。

ご実家が、阿蘇山の麓 高森町の造り酒屋で、よく「産湯から酒に浸かっていた。」と冗談を言っておられたが、むべなるかなと思った。

今、私は「加藤榮護 随筆集」を手になっているが、その当意即妙な、生きいきとした文章に惹かれる。

この様な友を失った事は、痛恨の極みであり、心から悔まれる。

相談役 浅海敏之

目黒稲門会の発足前の準備室の頃、目黒在住の大学の役員のリストを校友会から頂いた。加藤先輩が私の担当となり、電話をご自宅に。奥様がお出になり、いま、軽い脳梗塞を患っているので、健康になれば、喜んで入会すると思いますと。その通り後日お入りになりました。

加藤さんが熊本県立済々黌の東京のOB会長をされていると言うことが私の耳に入った。これで2代目の会長は決まりだと思った。真仁田初代会長の後、推挙委員会に諮り、満場一致で加藤さんが2代目会長に決まった。

或るお酒の席で、加藤さんが、鳥根県の松江に日本一美人の女将がいる料亭があると。隣にいた吉田（現会長）さんは、出雲マラソンで、私は亡妻の母の実家が松江。早速、ゴルフバックを担いで松江に。昼はゴルフ、夜は待望の美人の女将に会いに。加藤さんは始終ニコニコ顔で、よく飲んだし、楽しい一夜を過ごした。ホテルに戻った加藤さん、部屋のキー、どこを探しても見つからず、大騒ぎとなったが、次の日、チェックアウトの際、どこから出てきたのか、キーを返されていた。昨夜の大騒ぎは何も覚えていないと。

この9日、私はその松江にいた。2時過ぎ、吉田会長から、今朝、加藤さんが急死されたと、訃報にびっくり。すぐ、加藤宅におくやみの電話を。お慰めの言葉が見つからなかった。まさか、加藤さんの訃報を、あんなに楽しんだ思い出の松江で何うとは、今でも不思議でならない。残された者は寂しい。お世話になりました。ありがとうございました。安らかに眠りください。合掌

会員ギャラリー

「シチリア島 シラクーサの船着き場」

大杉邦雄（昭和40年 法）



出展作は、昨年3月半ば、南イタリア シチリア島に出掛けたときに描いたもので、場所は海に囲まれた街シラクーサの船着き場、明るい地中海の太陽と青い海を描いたつもりであるが、果たしてうまく表現できただろうか？ メリハリと躍動感あふれる絵をこれからも描いてゆきたいと思っている。

序にシチリアについて一言。

シチリアの魅力は、様々な異民族が残したたくさんの遺跡と食べ物が旨いことだと思う。ギリシャ神殿や劇場跡、ローマやアラブ人が残した遺跡をいたるところで見ることができる。イワシやウニのパスタ、イカスミのリングイーネ、これに白ワイン、どれもこれもなかなかの味であった。

校友会便り

——23区支部大会に参加——

3月6日（日）、23区支部大会が早稲田のリーガロイヤルホテル東京で盛大に開催されました。

来賓の鎌田総長他、総勢300名を超える大勢の校友が集まり、目黒稲門会からも吉田会長をはじめ、15人が出席しました。

第1部は、箱根駅伝で早稲田の全盛時代に4年連続5区の山登りを担当し活躍した金 哲彦氏による講演でした。

第2部の懇親会ではマンドリンアンサンブルの演奏を交え、おいしいワインと料理を楽しみながら、他区校友との交流も深めることができました。

なお、23区支部支部長区の任期が、2018年度よりこれまでの1年から複数年に代わる予定となっています。これを機に23区支部の活動は益々活発になると期待されています。（地田 記）



新入会員



渡辺厳太郎（平成6年 社会学）
（平成8年 社会学研究）

（目黒区鷹番在住）

趣味：テニス 俳句 カラオケ
昭和50年に順天堂大学医学部を卒業し、その後、企業の産業医を約33年務めました。その間、早稲田大学社会科学部を平成6年に、早稲田大学大学院社会科学部研究科修士課程を平成8年に卒業しました。今年1月に定年退職し、時間に余裕が出来ましたので地域の稲門会の皆様と交流を深めたいと考えています。

事務局便り

昨年に引き続き3月22日にサクラ基金として10万円を目黒区に寄付しました。感謝状と伐採した桜の幹等を活用した記念品「さんまペーパーナイフ」（右）を受領しました。



編集後記

若葉の光るキャンパスも、今頃は新入生を迎えて賑やかなことだろう。5月末には新入生にとって最大のイベント、早慶戦が始まる。初めて顔を合わせてからまだあまり打ち解けるまでになっていない新しい学友と、神宮球場のスタンドで初めて耳にし、口にする「ひかる青雲」や「早稲田の栄光」などの応援歌・学生歌。これからの人生の応援歌として、きっと生涯、心に残ることだろう。

今号にはこれらの歌を始め、多くの応援歌・学生歌を作詞された岩崎 巖先生の、作詞に至る貴重なお話を掲載させていただいた。目黒稲門会の会員だけでなく、全国の沢山の校友に読んでいただければ嬉しい。（地田 記）